

防衛 人身被害を防ぐ方法

通常、クマのほうが人間を恐れています。クマは耳がよいので、クマ鈴やラジオなどで音を出して、人間の存在を早く知らせることで遭遇しないように気を付けてください。クマを驚かせない、刺激しないのが基本です。

100mくらいの距離でクマを見たら、背中を向けないように、ゆっくり後ずさりしてその場から移動してください。20mくらいの距離でクマに出会ったら、クマを刺激してしまうので絶対に走って逃げないでください。クマは木登りが得意なので、木に登って逃げないでください。近くに木や電柱などがあれば、その後ろに移動してください。多くの場合、クマの方が立ち去ります。

3m以内くらいの近い距離で遭遇してしまうと、クマが驚いて突進してきたり、攻撃してきたりすることがあります。棒などがあれば反撃した方がよいという意見もありますが、できそうになれば、腹ばいに伏せて、両手で首の後ろを抑える防御の姿勢をとってください。



《できること② 獣害対策を見直す》

クマが森の中にいるだけなら直接的な被害はありませんが、畑の作物や果樹など、人間の生活圏によい食べ物があることに気づかれてしまうと、人里に出てくるようになるかもしれません。そうなれば、農業被害だけでなく、人身被害も起こりやすくなります。また、秋は冬眠前の季節なので、たくさんエサを食べます。その時に、エサを求めて人里に出てくる可能性もあります。クマを人里に寄せ付けなために、

- ① カキやクリなどの果樹に果実がついたままにしない。
- ② 収穫しない作物や生ごみなど、餌になるものを外に放置しない。
- ③ 定期的に草刈りをして、隠れることのできるヤブをなくす。

この対策を心がけてください。

また、クマの侵入を防ぐには電気柵が有効です。電気柵は草などが触れて漏電したり、バッテリーが弱っていたり、アースの打ち込みが浅かったりすると、電圧が上がらず効果が出ません。電気柵の電圧は4000V以上で効果を発揮します。電気柵を設置している方は、この際に電気柵の管理を見直してください。

正しく知って、冷静に警戒してください！
この機会に、獣害対策を見直しましょう！



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯舘村の主担当となりました。

「クマがいる!？」～私たちは何をすべきか～



佐須地区内でドライブレコーダーに捉えられたクマ。画像の提供は赤石澤典彦さん(大久保・外内)。

5月28日に比曽で、6月2日には佐須で、それぞれクマらしき動物が目撃され、どちらもドライブレコーダーに映像が記録されました。そのうち、佐須で目撃された動物は、色や形、歩き方からクマだと断定できるもので、体長は45～50cmくらいの若い個体だと思っています。クマが村内にどのくらいいるのか、長く住み着いているのかは分かっていませんが、目撃されていることは事実です。今回は、「村内にクマがいる」ことを前提として、私達にできることを考えたいと思います。

《できること① クマについて知る》

今のところ、村内でクマが畑の作物を食べたとか、人を威嚇してきたということはありません。すぐに発生し得る主な被害は、クマを恐れる気持ちや、よく知らないことから生まれる精神的な被害です。例えば、はっきりしない形の足跡を見るとクマの足跡に見えてしまい、そこから中にクマがいるように思えてきて、農家の人が畑に行きたくないとか、ハンターが狩猟をやめたいなどと考えてしまうことです。

クマに限らず、野生動物には気を付けるべきですが、正しい知識をもって、正しく恐れることが大切です。

特徴

まず、本州にいるクマはツキノワグマといって、北海道にいるヒグマと比べると小型です。成獣(オトナ)の鼻先からお尻までの長さは110cmから150cmくらいで、体重は80kgから120kgくらいです。毛の色は黒色で、胸に白い三日月型の模様があります。走る速さは時速50kmくらいで、木に登ることも得意です。成獣は1頭で行動しており、決まった縄張りを持ちませんが、繁殖期にあたる6月から7月頃には、オスとメスが一緒にいることもあります。

食べ物

植物を中心とした雑食性で、色々なものを食べますが、ドングリやサクラ、ヤマブドウなどの実、植物の葉、芽などをよく食べます。シカやイノシシなどの動物の死体や、弱った動物を食べることもありますが、基本的には人や動物を食べるために襲うことはありません。

痕跡

成獣の足跡は、幅が10cmくらいで、5本の指が前向きに並んでつくのが特徴です。クマ以外の足跡が、時間が経って周囲の土が崩れた場合に、大きな足跡のように見えてクマの足跡と間違えることがよくあります。

糞は人間のものと同じくらいか、もっと大きいものもあります。食べたものによって色や形が様々に変わりますので、決まった色や形はありません。タヌキが「ため糞」といって、同じ場所に糞をして大きな糞の塊のようにすることがあり、それをクマの糞と間違えることもよくある話です。

